

PDCA サイクルシート(国語編)

学部学年(小学部1年)

Plan①

学習指導要領	
<p>【対象児童生徒の現在の実態】</p> <p>(小学部 1段階)</p> <p>I-(1) 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり(△)、表情(○)や身振り(△)、簡単な話し言葉などで(△)表現したりする。</p> <p>I-(2) 身近な人からの話しかけに注目したり(○)、応じて答えたりする。(△)</p> <p>I-(3) 文字に興味をもち(△)、書こうとする。(△)</p> <p>I-(4) 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり(△)、登場人物の動きを模倣したりする。(△)</p> <p style="text-align: right;">→【目指す段階】 (小学部 1段階)</p>	
<p style="text-align: center;">S スケール(学習到達度チェックリスト)</p>	
<p>【現在の実態】</p> <p>○聞くこと スコア(1)</p> <p>○話すこと スコア(2)</p> <p>○書くこと スコア(1)</p> <p>○読むこと スコア(2)</p>	<p>【目指すスコア】</p> <p>○聞くこと スコア(1)</p> <p>○話すこと スコア(2)</p> <p>○書くこと スコア(1)</p> <p>○読むこと スコア(2)</p>
<p style="text-align: center;">学びの履歴</p> <p>入学してからの国語の学習では、「聞くこと」については、絵本「てるてるぼうず」に出てくる「ザー」の音をレインスティックで表現すると、それまで目を瞑っていたが、「ザー」の音を耳元で繰り返すうちに徐々に目を開けていき、覚醒につながる場面があった。「話すこと」については、覚醒している時は、教師からの問いかけや働きかけに対して、瞬きの回数や速さの変化で気持ちのやり取りをおこなうことが多い。「書くこと」については、抱えられる時に身構えたり、移乗の際にグググッと力が入ったりすることがあるなど、刺激に対しての反射的反応が見られる。「読むこと」については、太陽の眩しさを感じると、瞬きが速くなる様子が見られ、絵本を目の前に提示すると、3秒ほど注視しているように思う。</p>	

・学習指導要領の算数(数学)の各内容の指導事項を参考に、対象児童生徒の達成状況を「◎=よくできる、○=できる、△=むずかしい」でチェック。細かく実態把握を行う。
・目指す段階も記入する。

・必要に応じて、Sスケールで実態把握。
・学習指導要領で実態把握が可能な場合は未記入でOK。

Plan②

対象児童生徒の国語の目標

- 教師の話や読み聞かせに出てくる音や言葉にふれ、それらに応じることができる。【知識及び技能】
- 教師の読み聞かせやかかわりに応じ、表情や身体の動きで表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】
- いろいろな物や人に意識を向け、それらに気付き、見ようとするすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

Plan③

対象児童生徒の本時の目標

- 「おせんべ」という言葉やおせんべが割れる音にふれ、目の動きで応えることができる。
- わらべうたやてあそびに応じ、体の一部に力を入れて、気持ちを表出することができる。
- 目を大きく開いて、自分の順番がくることを期待することができる。

Plan④→Check⑥

本時の対象児童生徒の評価

◎…よくできた ○…できた △…できなかった

・【知識・技能】 言葉や音に気づき、瞬きをしたり、眼球を動かしたりすることができる。	○
・【思考・判断・表現】 教師とのふれあい遊びの際、口の形を変えたり、手や体に力を入れたりすることができる。	◎
・【主体的に学習に取り組む態度】 自分の順番がきたら、目を開けたり、見開いたりすることができる。	◎

Do⑤

○ 単元（題材）名 「11月の絵本に親しもう」

時間	学習活動	教材・教具
導入	○ 始まりの挨拶をする。 ○ 本時の内容を知る。	・タブレット ・TV モニター
展開	○ わらべうた「うっつけ うっつけ」のふれあい遊びを行う。 ○ 絵本「おせんべやけたかな」を見る。 ・絵本に出てくる言葉「おせんべ」を知る ・おせんべが割れる音や感触に触れたり、香りを感じたりする。 ・真っ白のおせんべ（画用紙）をひっくり返し、焼けた（茶色の画用紙）おせんべいをホワイトボードにつけ体現する。 ・手遊びうた「おせんべがやけたかな」を行う。 ○ 絵本「へっこぷっとたれた」を見る。 ・きのこを知る。（見る・触れる・匂いを嗅ぐ・おしる） ・絵本のリズムにあわせて「おいっちに～の○○さん、へっこぷっとたれた」の声掛けの後にクワイヤーホンでおならの音を再現する。	・絵本(1) ・おせんべい ・手拭き ・ホワイトボード ・絵本(2) ・きのこ ・袋 ・クワイヤーホン
まとめ	○ 本時のまとめをする ○ 終わりの挨拶をする。	

※絵本(1)「おせんべがやけたかな」 絵本(2)「へっこぷっとたれた」

Check⑦

授業者を含むグループ職員の評価

<p>【成果】</p> <p>○実態把握から目標決め、授業展開、評価まで研究グループの職員で検討することができたため、自信をもって授業に臨むことができた。</p> <p>○目標を立てるにあたって、学習指導要領を読み込んだり、著書を参考にしたりなど学びを深めることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>●スコア1,2の実態の児童を対象として国語の授業を行ったが、目標のたてかたや授業の内容についてこれでよかったのかと不安は残る。重度の児童の国語の進め方について、さらに他の職員とも意見交換ができるとよい。</p>

Action⑧

☆ 次年度の個別の指導計画、年間指導計画に活用しましょう。

【参考】長崎県立諫早特別支援学校 H29年度研究報告書

PDCA サイクルシート(国語編)

学部学年 (小学部6年)

Plan①

学習指導要領	
【対象児童生徒の現在の実態】 (小学部 1段階) I-(1) 教師の話しかけに慣れ(◎)、言葉が物事の内容を表していると感じる(△)。 I-(2) 教師の話や読み聞かせに応じ(○)、音声を模倣したり(◎)、表情(○)や身振り(△)、簡単な話し言葉(△)などで表現したりする。 I-(3) 文字に興味を持ち(△)、書こう(△)とする。 I-(4) 教師と一緒に絵本などを見て(○)、示された身近な事柄や生き物などに気づき(○)、注目する(△)。 →【目指す段階】 (小学部 1段階)	
S スケール(学習到達度チェックリスト)	
【現在の実態】	【目指すスコア】
○聞くこと スコア (12)	○聞くこと スコア (18)
○話すこと スコア (8)	○話すこと スコア (12)
○書くこと スコア (8)	○書くこと スコア (12)
○読むこと スコア (12)	○読むこと スコア (18)
学びの履歴	
これまでの国語の学習では、「聞くこと」について、教師が絵本の読み聞かせを行い、表現に合わせて動作を行うことができた。また、呼名について、名前を呼ばれると「あー」と返事をするができる。友達が挨拶や発表をする際に、話すことが我慢できずに話し始めてしまうことがある。「話すこと」について、絵本や紙芝居の表現を模倣し、様々な感情の声を出すことができた。いろいろな話し方の学習では、「あー」という声を長く出すことができた。「読むこと」について、教師と一緒に絵本を見て、絵本に登場する動物などの話し言葉や、動作の音声を表す言葉を読み、面白さに気づくことができ、声を出して楽しさを表現することができた。	

Plan②

対象児童生徒の国語の目標

- 日常生活に必要な身近な言葉が、物事の内容を表していることを理解し、その言葉の数を増やすことができる。【知識及び技能】
- 読み聞かせや発表を通して、話を聞く場面と話をする場面の切り替えをして、話したり聞いたりすることができる。【思考力・判断力・表現力等】
- 言葉の表現に気づき、注意を向けて見たり、声を出したりしようとするすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

Plan③

対象児童生徒の本時の目標

- 教師の指示や友達の発表に耳を傾け、終わるまで聞く姿勢をとることができる。【思考力・判断力・表現力等】
- 絵本に出てくる言葉に気づき、挿絵を見ながら声を出したり、絵カードを選択したりすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

Plan④→Check⑥

本時の対象児童生徒の評価

◎…よくできた ○…できた △…できなかった

・読み聞かせや発表の際に、話す場面と聞く場面の切り替えをして、発表者に顔を向けたり、注目したりすることができる。【思考・判断・表現】	◎
・絵本の挿絵に注目して声を出したり、絵カードを選択しようとしたりすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】	○

Do⑤

○ 単元（題材）名 「言葉遊び～だるまさんとともに～」

時間	学習活動	教材・教具
導入	○ 始まりの挨拶をする。 ○ 前単元の復習をし、発表する。 ○ 本時の内容を確認する。	・モニター ・PC ・学習カード
展開	○ 絵本（「だるまさんの」）を見る。 ・「だるまさんの～」のかけ声を聞き、次ページの挿絵を見て、描かれている言葉を発する。または声を出す。 ・描かれている身体の場所を目で見たり、手で触れたり、絵カードを選択したりする。	・絵本 ・モニター ・PC ・タブレット
まとめ	○ 本時のまとめをする。 ○ 終わりの挨拶をする。	

Check⑦

授業者を含むグループ職員の評価

<p>【成果】</p> <p>○ 友達の発表や読み聞かせに対して、しっかりと発言者に顔を向け、静かに聞くことができた。</p> <p>○ 話す場面では声を出し、発表することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>● 絵カードを選択する場面で、集中が途切れてしまい選択するまで時間を要した。集中できるような環境作りが必要。</p> <p>● お弁当の発表の際、形や香りなど実物を体験できるような教材があれば児童の興味を引き出すことができたのではないか。</p> <p>● 語彙の理解がどの程度できているか把握が難しいと感じた。 → 日頃の実態把握の積み重ね、児童が興味・関心をもてるような教材や授業計画の工夫が必要。</p> <p>● 教科だけの完結は難しい。合わせた教科、自立活動との関連を図り、児童の意思の表出や体験活動の充実を図る必要がある。</p>
--

Action⑧

☆ 次年度の個別の指導計画、年間指導計画に活用しましょう。

【参考】長崎県立諫早特別支援学校 H29年度研究報告書

PDCA サイクルシート(算数(数学)編)

学部学年(小学部 3年)

Plan①

学習指導要領	
<p>【対象児童生徒の現在の実態】</p> <p>(小学部 1段階)</p> <p>(1) 具体物に気付いて指をさしたり(O)、つかもうとしたり(◎)、目で追ったりする(O)。</p> <p>(2) ものの有無に気付き(◎)、3までの範囲で具体物をとることができる(X)。</p> <p>(3) 具体物に注目して指を差したり(O)、つかもうとしたり(◎)、形が同じものを選ぶ(X)。</p> <p style="text-align: right;">→ 【目指す段階】 (小学部 1段階)</p>	
<p>S スケール(学習到達度チェックリスト)</p>	
<p>【現在の実態】</p> <p>○数と計算 スコア (8)</p> <p>○量と測定 スコア (8)</p> <p>○図形 スコア (8)</p>	<p>【目指すスコア】</p> <p>○数と計算 スコア (8)</p> <p>○量と測定 スコア (8)</p> <p>○図形 スコア (8)</p>
<p>学びの履歴</p> <p>これまでの算数の授業では、目の前に2種類の色を提示し、2つをよく見て、そのうちの1つを指さして選択することができるようになってきた。また、友達の名前を聞いて、2枚の写真から正しいものを選択する学習に取り組み、2枚の写真を提示しながら「○○さんはどっち?」と尋ねると、正しい写真を触って選択することができるようになってきた。ものともとのを対応させる活動では、手を伸ばしたり、握ったりしようとするものの、活動内容の理解までは至っていない。タブレット端末を用いた数の選択の際は、提示されたものを注視し、ヒントカードと見比べ、正しい数を指さして選択する姿が見られるようになってきている。</p>	

・学習指導要領の算数(数学)の各内容の指導事項を参考に、対象児童生徒の達成状況を「◎=よくできる、○=できる、△=むずかしい」でチェック。細かく実態把握を行う。
・目指す段階も記入する。

・必要に応じて、S スケールで実態把握。
・学習指導要領で実態把握が可能な場合は未記入でOK。

Plan②

対象児童生徒の算数(数学)の目標

- 具体物に気付いて指差しをし、物の色や形に対応させて操作することができる。【知識及び技能】
- 数のまとまりや数え方に気付き、諸感覚を協応させながら捉えることができる。【思考力・判断力・表現力等】
- 数唱や色や形の違いに注意を向け、関心をもって、学習に取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】

Plan③

本時の目標

- 提示した具体物の有無に気付き、具体物をつかもうとしたり、対応させたりすることができる。
- 果物の色に注目し、果物の色と箱の色が同じであることに気付くことができる。
- 果物の色や形に関心を持ち、自ら操作しようとする。

Plan④→Check⑥

本時の対象児童生徒の評価

◎…よくできた ○…できた △…できなかった

・果物の色と同じ色の箱を結び付け、色箱の中に対応する果物を入れることができる。【知識・技能】	△
・果物の色と同じ色の箱に注意を向け、色の違いに着目し、選択することができる。 【思考・判断・表現】	△
・果物玩具に自ら手を伸ばしたり、色の違いに気づいたり楽しみながら活動することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	○

Do⑤

○ 単元（題材）名 「かず・いろ・くだもの」

時間	学習活動	教材・教具
導入	○ はじめのあいさつ ・号令時のリズムに合わせて机を叩く。 ○ 本時の学習活動を知る	・ホワイトボード ・TV ・PPT
展開	○ 課題に取り組む (1) 数に親しもう ①数字の歌 ②数えてみよう（1～3） (2) 色に親しもう ①色の歌 ②同じ色を選ぼう (3) 果物がりをしよう ①とってみよう ②わけてみよう ③数えてみよう	・TV ・数字カード ・サイコロ ・色カード ・果物の模型 ・果物フェルト ・数字カード
まとめ	○ 終わりのあいさつをする	

Check⑦

授業者を含むグループ職員の評価

<p>【成果】</p> <p>○繰り返しの学習で、学習内容の定着が期待できると感じた。</p> <p>○児童の実態に応じた教材・教具を作成することができた。</p> <p>○授業スライドがあることで、児童が見通しをもち活動することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>●6月に転校してきた児童を対象児童とした。実態把握が不十分であったため、難易度の高い学習内容、目標を設定してしまった。</p> <p>●児童に馴染みのあるものや好きなものから“同じ”を操作できる活動を取り入れると良かった。</p>

Action⑧

☆ 次年度の個別の指導計画、年間指導計画に活用しましょう。

【参考】長崎県立諫早特別支援学校 H29年度研究報告書

PDCA サイクルシート(算数(数学)編)

学部学年 (小学部 6年)

Plan①

学習指導要領	
【対象児童生徒の現在の実態】 (小学部 1段階) (1) 具体物に気付いて指を差したり(△)、つかもうとしたり(△)、目で追ったりする(△)。 (2) ものの有無に気付いたり(△)、3までの範囲で具体物を取ったりする(△)。 (3) 形や色の違いに気付き(△)、同じものが分かる(△)。 (4) ある・ない、大きい・小さい、多い・少ないなどの用語に注目して表現する(△)。 → 【目指す段階】 (小学部 1段階)	
S スケール(学習到達度チェックリスト)	
【現在の実態】 ○外界の知覚認知 スコア(1に満たない)	【目指すスコア】 ○外界の知覚認知 スコア(1)
学びの履歴	
これまでの算数の授業では、教師と一緒に様々な具体物に触れ、感覚の違いに気づいたり、音を鳴らして存在に気づき、自ら耳元で音を鳴らしたりすることができた。また、具体物に気付き、自ら手を伸ばして触ろうとする課題では、教師と一緒に5までの数字カードから数字を選び、選んだ数だけスイッチを押して明かりを灯すことができた。特に明度の高い色や光る物に興味をもち、明るい色を見つめる様子が見られた。魚釣りゲームでは、教師と一緒に竿を持ち、手首を動かして魚を釣り、教師と数を数えたり、自ら竿を動かしたりして魚を釣ることができた。大きい、小さいでは、バランスボールをしっかりと両手でつかんで大きさを実感し、小ボールは手の平でつかむことで物の大小を体感しながら繰り返し学習に取り組んできた。	

Plan②

対象児童生徒の算数(数学)の目標

- 具体物に対応させたり、組み合わせたり、形、色、大きさなどに関心をもつことができる。【知識及び技能】
- 具体物の量を数で表すことを体験的に気づくことができる。【思考力・判断力・表現力等】
- 提示された具体物に注目し、意欲的に学習に取り組もうとする。【学びに向かう力、人間性等】

Plan③

本時の目標

- 3までの範囲の数で具体物を掴んだり、持ったりできる。
- 具体物を操作することができる。
- 具体物に関心をもち、視線を向けたり、自ら手を伸ばしたりできる。

Plan④→Check⑥

本時の対象児童生徒の評価

◎…よくできた ○…できた △…できなかった

・目の前に提示されたものに気づいて反応することができる。【知識・技能】	○
・1の数の具体物をつかんだり、握ったりできる。【思考・判断・表現】	○
・具体物に関心をもち、目で追ったり、自ら手を伸ばしたり活動に取り組むことができる。【主体的に学習に取り組む態度】	○

Do⑤

○ 単元（題材）名 「さわってみよう」

時間	学習活動	教材・教具
導入	○ あいさつ ○ ふりかえり	スイッチ どんぐり どんぐり入りペットボトル
展開	○ 今日の流れ、本時のめあて ○ いろの歌 ○ 絵本の読み聞かせ ・絵本に気づいて見ることができる。 ○ みかんを数えよう ・「たくさん」と「1つ」 ・「たくさん」のみかんから1個つかんでお皿にのせる。 ○ みかん1個の中に、房はいくつあるかな？ ・みかんをむいて房の数を数えてみよう。	モニター 絵本「そのなかには・・・？」 空箱、みかんが入った箱 お皿
まとめ	○ ふりかえり ○ 終わりのあいさつ	

Check⑦

授業者を含むグループ職員の評価

<p>【成果】</p> <p>○五感を活用した学習に取り組むことで、みかんがたくさんあることに気づいて笑顔になるなど、興味関心をもって授業に参加する様子が見られた。</p> <p>○毎時間さつまいもの葉を数え、数で表す体験を重ねてきた。研究授業では「2人のみかんの房を合わせていくつか数えよう。」と伝えると顔を上げて教師の方に注目する様子が見られ、数で表すことへの気づきを感じられた。</p> <p>○具体物を教材に取り入れることの効果をあらためて検証するよい機会となった。</p> <p>【課題】</p> <p>●色の理解や「ある」「ない」が分かっているのかなどの実態把握が難しい。日々の表出をより細やかに観察、共有し、児童の意欲を引き出せる授業づくりに生かしていきたい。</p> <p>●発達段階を把握し、実態に合った活動を行えるよう観察と検討を重ねていきたい。</p> <p>●Sスケールスコア1に満たない児童の目標設定や評価基準設定の難しさを感じた。</p>

Action⑧

☆ 次年度の個別の指導計画、年間指導計画に活用しましょう。

【参考】長崎県立諫早特別支援学校 H29年度研究報告書